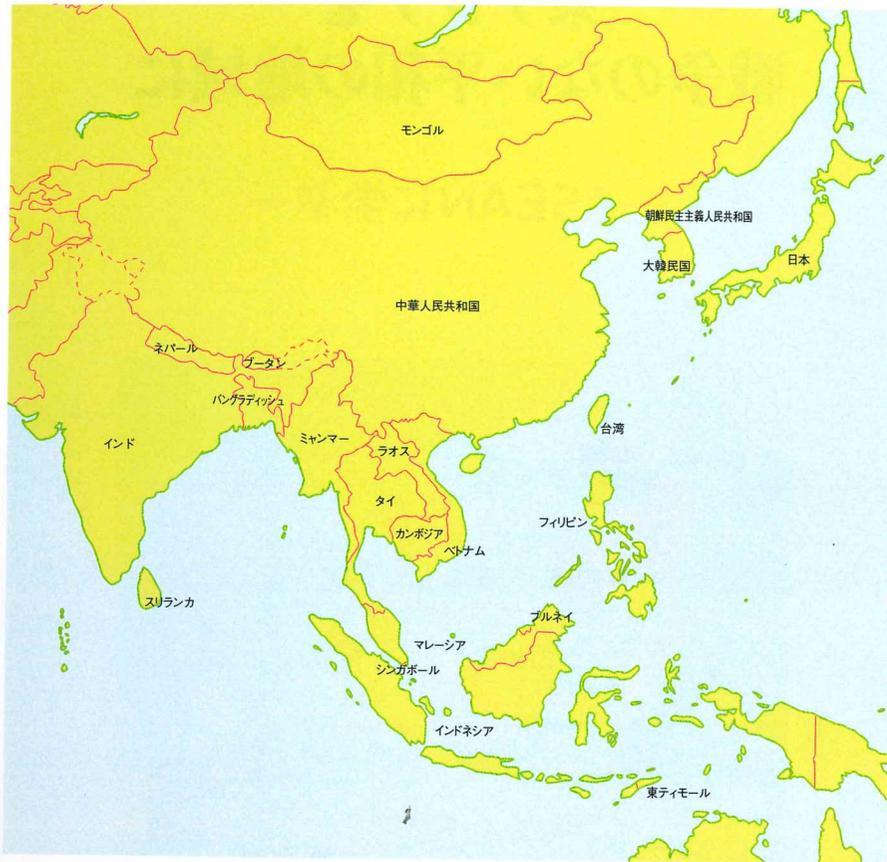


東アジア地図



ASEANブックレットの刊行にあたって

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会
ASEANブックレット編集委員会 代表 野本久夫

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会（日本AALA）は、昨年2022年の11月末に、「戦争するな！どの国も 第8次国際署名」をAALA議長国カンボジアに直接提出する「2022年カンボジアツアー」を実施しました。ツアーグループ（18人）はカンボジア外務省でASEAN総局次長プラク・デビド氏と懇談し、「国際署名」11,000筆を直接提出することが出来ました。2020年、2021年はコロナパンデミックのためブルネイとベトナムを訪問することは叶いませんでしたので、カンボジア外務省との直接懇談実現は画期的なことでした。「これこそ民間外交であり、日本人の平和を願う気持ちを伝えることが出来た」との感想が参加者から寄せられました。この外務省懇談を実現する上で、駐日カンボジア王国大使トゥイ・リー氏の講演会を8月にオンラインで行い、カンボジアの政治、経済、文化などについて学ぶと共に、大使から「本国で皆さんのカンボジア訪問を歓迎する」との言葉を頂いたことは大きかったと思います。

第8次「国際署名」11,000筆は、各都道府県AALAの皆さんが労働組合、民主団体、趣味の会などの協力を得て2022年に集約されました。多くの人々に「国際署名」をお願いするうえで昨年5月末に

発行した『ASEANリーフレット』（A5判8ページ）は、ASEANの歴史と活動、「紛争を話し合いで解決する」ASEANの努力、「国際署名」の意義をわかりやすく解説したもので、好評を頂きました。

日本AALAは、2014年10月に『知りたかったアセアン』（A5判）を発行しました。2014年6月に日本AALA「ASEAN訪問団」は、ASEAN事務局のあるインドネシアと議長国ミャンマーを訪れ、ASEAN事務局、両国政府関係者、政党代表や平和団体で日々活動されている方々と会談し、或いは懇談しました。訪問団が日本AALAの運動の歴史や、憲法を守り生かし、「東アジアに平和の共同体を」の方針と熱い願いを伝える中で、面談者と日本AALAの間には、平和5原則、バンドン10原則、非同盟諸国運動の参加組織という共通の土台があることに確信を持つことができました。『知りたかったアセアン』は、ASEANとは何か、ASEAN指導者との会見記録、ASEANの重要宣言、協定、条約を掲載しています。AALAの会員を始め、労働組合、民主団体の方々に1,500部普及し、日本AALAが進めている「東アジアを平和の共同体に」の運動、2015年からの8年間に及ぶ「国際署名」活動に寄与してきました。

本書は、『知りたかったアセアン』の発行からほぼ9年経つ今、平和で安定したインド太平洋地域を築くために努力しているASEANについて、創設から現在までの歴史と活動、そして日本AALAの果たしてきた連帯運動について分かりやすく解説したものです。また、北東アジアの近現代史と様々な課題にも触れました。

2022年2月のロシアのウクライナ侵略から1年6カ月経ちますが、戦争の終結が見通せません。日本AALAは、ロシアの侵略即時停止を求めるとともに、「軍事対軍事ではなく、紛争は話し合いで解決を」を掲げて活動しています。今や、NATO、G7は世界の中心でなく、軍事同盟はNATO（31カ国加盟）、日米（安保条約）、米韓、米豪など少数です。他方、非核・非同盟の国々は約130カ国で世界人口の約80%、60数億人の多数となっています。2021年1月に発効した「核兵器禁止条約」には92カ国が署名、批准は68カ国（2023年1月）となりました。世界は「グローバルサウス」と言われるアフリカ、中南米、アジア、中東の諸国が存在感を強めており、世界政治の動向に大きく関わってきています。

日本AALAは、岸田政権に「戦争を起こさないために憲法9条に基づく平和外交を進めること」を強く求めるとともに、ASEANに学び「東アジアを平和の地域に」発展させる運動をすすめています。このブックレットの刊行にあたっては、専門家や各地域の方々の協力を得ました。ご協力に改めてお礼を申し上げます。